

ダメ

～事象を多角的に捉え学びをつなぐ子ども～

授業者 附属池田小学校 大貫 翔貴

1. 対象 附属池田小学校 第1学年西組(33名)

2. 単元目標

やさしさについて、自己が抱いていたイメージに加え、「家族(家族愛,家庭生活の充実)」「友人(友情,信頼)」「自分(善悪の判断,自立,自由と責任)」の3つの視点から考えを深めることができる。

3. 指導に当たって

(1) 単元を通して育む「グローバル市民」と学習との関連

・グローバル市民の選択項目

「つなぐ力のある人」

・学習との関連

本学習では、児童と設定したテーマ(やさしさとは)をもとに学習を進めていく。テーマである「やさしさとは」について、「家族(家族愛,家庭生活の充実)」「友人(友情,信頼)」「自分(善悪の判断,自立,自由と責任)」の3つの教材を用いて、それぞれで描かれている「やさしさ」という道徳的事象について考える。多様な道徳的価値をもとに考えることで多角的に考えを深めることをねらいとする。

その過程で、児童は学びをつなげながら、他者を思う共通点や自己を尊重する相違点を見出すと考える。

・目標達成するためにつけるべき力

(1)過去の教材と比べながら道徳的事象を捉える力

(2)学級の友達の意見に耳を傾け、共に考えを深めようとする力

(2) 教材観

本単元では、「ルンルン(家族愛,家庭生活の充実)」「こころ はっぱ(友情,信頼)」「ダメ(善悪の判断,自立,自由と責任)」の3つの教材を扱う。どの教材も主として扱う内容項目には違いがある。しかし、「やさしさ」という道徳的事象でみると共通するところがあると考えられる。

例えば、「ルンルン」は、日々子ども達のために家事をするお母さんとお父さんが登場する。そんな家族のために、ぼくが洗濯物をたたむお話である。家族のために行う行動にはやさしさが含まれている。そのやさしさには、親が子どもの成長を願う気持ちや愛情があり、子どもが家族の一員として行動しようとする思いがある。

また、「こころ はっぱ」は、寂しそうな様子で友だちを欲しがっているのしくんに3匹の動物が、「ともだちになって」「いっしょにあそぼう」とやさしい言葉かけをする。そのおかげで、新しい友達ができるというお話である。このやさしい言葉かけには、他者を大切にしようとする気持ちや友達と仲よくしようとする思いがある。

このように、2つの教材には相手のことを考えようとする姿が描かれている。

一方、本時で扱う「ダメ」は、体の大きいくまくんに何でも譲ってきた、りすくんが登場する。しかし、大好きであったプリンを「ダメ。」と言えず、くまくんに取られてしまう。そんな「ダメ。」と言えない自分に悔しく思うりすくんだが、勇気を出して心の内を明かすお話である。このお話は、譲るという行為がマイナスにはたらいっている。何でも譲ることが「やさしさ」なのか。自らの思いを我慢することが「やさしさ」なのか。これまで2つの教材で相手の思いに寄り添ってきた児童にとって、「やさしさ」について問い直すきっかけとなる教材である。

(3) 児童観

1年生の発達的特質を考えると他者からの価値付けが、正しいかどうかの基準となることが多い。学校においては、教師や友達による称賛が善となり、叱責が悪となることがある。本学級の児童においても、友達に喜ばれたことや褒められたことを率先して行ったり、教師が指導したことに関しては、してはいけないことであると口に出し

たりすることがある。「やさしさ」についても同様に言える。児童は、友達に対してはやさしい姿を見せることが多い。これまでの経験からしてもらったことや感謝されたことを自分もしようとする姿が見られる。しかし、相手の気持ちに寄り添えず、自分勝手なやさしさとなっていることもある。また、相手を優先するあまり、間違っている行動や自分の思いを我慢する姿も見られる。これは、行為そのものがよいか悪いかで判断してしまっているからであると考ええる。本単元を通して、やさしい行為だけでなく、やさしさに必要な心についても深めてほしいと考える。

(4) 指導観

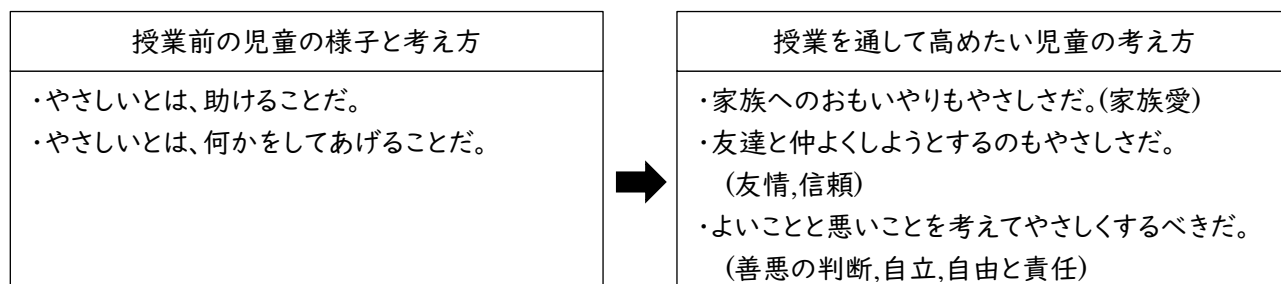
本単元では、道徳的事象を多角的に捉えることを目標としている。そのための方法として、同じような道徳的事象が描かれた3つの教材を選定した。3つの教材とそこに描かれる道徳的事象を多角的に捉えるためには、現在の学びと過去の学びをつなげて考える必要がある。しかし、教師が教材を選ぶだけでは、児童自ら学びをつなぐことはできないと考える。

そこで、児童が何を学ぶのかを明確にもちながら学習できるよう、児童と共にテーマを設定することとした。児童からは、「2年生に向けての準備について」「かっこいい2年生になるために」という意見があった。児童に理想とする2年生の姿を尋ねると、「助ける」「やさしい」「教える」と答えた。この中から「やさしさ」をテーマとし、「やさしい2年生になるためにはどのようなことが必要か」を考えることとした。

このことは、コモンルーブリックで示されている「つなぐ力のある人」と関係している。学級の仲間と決めたテーマをもとに、複数時間かけて学びをつなげていく必要があるからである。

児童にとって、本時で扱う「ダメ」は、前時までに学んできた2つの教材と比べると違和感を感じるだろう。それは、「〇〇してあげる」という視点で考えてもやさしさにつながらない点である。物語に登場するりすくんは、くまくんに何でも譲ってあげる。しかし、りすくんの譲るという行為はやさしさよりも遠慮や本心を言い出せない心の弱さが含まれている。本当はいけないことでも、譲ることがいいことなのか。自分の思いを我慢してでも相手のためになればいいのか。このりすくんの心情を児童と共に考えることで、「やさしさ」について捉えなおすことができる。そのために、前時までの学びを導入として振り返り、本時での学びとつなげて考えられるようにしたい。

4. 授業を通して期待する児童の変容



5. 単元の指導計画(全5時間)

時間	学習内容
1(特活)	1年生の残り半年、どんなことを頑張っていきたいのかを考え、テーマ設定をする。
2(道徳)	教材:ルンルンルン(日本文教出版) 主とする内容項目:家族愛,家庭生活の充実 家族のやさしさを知り、家族の一員として自分にできることを進んで手伝おうとする心情を考える。
3(道徳)	教材:こころ はっぱ(東京書籍) 主とする内容項目:友情,信頼 友達と進んで関わり、やさしい言葉かけを通して仲良くしようとする心情を考える。
4(道徳) 【本時】	教材:ダメ(東京書籍) 主とする内容項目:善悪の判断,自立,自由と責任 よいと思ったことは、恐れなくて、勇気をもって行おうとする意欲や態度について考える。
5(特活)	これまでの学びを振り返り、テーマに対する自らの考えをまとめる。

6. 本時の展開

(1) 本時の目標

りすくんが譲ることで葛藤する心情について話し合うことを通して、やさしい行為だけに目を向けず、よいと思ったことは、恐れなくて、勇気をもって行おうとする意欲や態度を育む。

(2) 本時の評価規準

- ・前時までの「やさしさ」について比べて考えようとしている。
- ・りすくんの行為の裏側にある心に目を向けて考えようとしている。

(3) 本時の学習とグローバル市民コモン・ルーブリックとの関連

① 項目

つなぐ力のある人

② 内容

「ルンルン」と「ころはっば」で学んだことや自らの経験をつなげて、「ダメ」で描かれている道徳的事象を捉えようとしている。

(4) 展開

学習過程	学習活動および内容	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 5分	・前時までの学びを振り返る。	○「ころはっばでは、どんなやさしさをみつけましたか。」 ・友達にやさしい声掛けをする。 ・やさしい声掛けで友達の輪が広がる。	・振り返りを1枚にまとめ、「やさしさ」について振り返ることができるようにする。
展開 35分	【範読を聞く】 ・ペアで感想交流をする。 ・りすくんとくまくんの気持ちを考える。 ・これから大切にしたいことを考える。	○「どんなことを感じましたか。」 ・なぜりすくんが、何でも譲っていたのがわからない。 ・りすくんの「ダメ」と言えなかった気持ちがわかる。 ・くまくんは、自分勝手だな。 ○「りすくんは、やさしいのでしょうか。」 ・ブランコを譲っていたのはやさしさかもしれない。 ・何かをしてあげているけど、プリンは欲しかったんだよ。だから、やさしさじゃない。 ・友達のことを考えてダメと言えなかったのかも。 ○「ダメと言えたりすくんは、どんな気持ちでしょう。」 ・すっきりした気持ちだと思う。 ・もやもやした気持ちがなくなったと思う。 ○「りすくんのように、もやもやしないためには、どんなことを大切にしたらよいでしょう。」 ・何でも譲るんじゃなくて、ダメなものはダメと言えるようになりたい ・自分の気持ちも大切にしたい。	・児童が物語を聞いて感想をもてるよう、「共感するところ」「不思議だと感じたところ」の2つの視点を提示する。 ・単元テーマである「やさしさ」と、主とする内容項目の「善悪の判断、自立、自由と責任」が混在しないように、児童から出た意見を板書で整理する
まとめ 5分	・本時の学びを振り返る。	○考えたこと・気づいたこと・これから大切にしたいことを振り返りに書きましょう。	

7. 参考文献

赤堀博行(2021)『道徳的価値の見方・考え方』東洋館出版

8. 資料:池田地区「グローバル市民」コモンルーブリック

項目	高等学校	中学校	小学校	
			高学年	低学年
主体的な人	これまでの経験や学んだこと、 新たな試みの視点 などから目標を持ち、その達成に向けて 自主的に粘り強く、創造的に 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと、 試みの視点 などから目標を持ち、その達成に向けて 自主的に粘り強く 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと、 試みの視点 などから目標を持ち、その達成に向けて 自主的に 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだことから目標を持ち、その達成に向けて 進んで 取り組むことができる。
つなぐ力のある人	これまでの経験や知識を関連づけて 創造的に 物事を考え、 周りの人たちや異なる文化圏の人たちとの協働を構想・実践 することができる。	これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え、 地域社会の人たちとの協働を構想・実践 することができる。	これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え、 学校の人たちと協力して 取り組むことができる。	これまでの経験や知識をもとに物事を考え、 学級の人たちと力を合わせて 取り組むことができる。
探究力のある人	自らの問題として、 身近なコミュニティや世界の出来事 から課題を見出し、その解決に向けて取り組み、 振り返りながら、創造的に 追究することができる。	自らの問題として、 身近なコミュニティ から課題を見出し、その解決に向けて取り組み、 振り返りながら 追究することができる。	自らの問題として、 身の回り から課題を見出し、その解決に向けて取り組み、 振り返り することができる。	自らの問題として、 身の回り の課題を見出し、その解決に向けて取り組みすることができる。
寛容な人	他者の意見や考え方に対して 共感と傾聴の姿勢 で接し、 多様性を尊重しながら相互理解 を深めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感の姿勢 で接し、 多様性を受け入れ相互理解 を進めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感の姿勢 で接し、 相互理解 を進めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感の姿勢 で接することができる。

これまでの経験や知識をもとに物事を考え、**学級の人たちと力を合わせて**取り組むことができる。